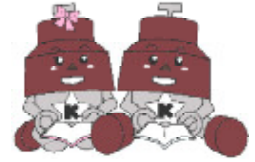




147号 2014.3

# 川口市立図書館 図書館だより



パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>



QRコード →

## わたしの今年の一冊 2013

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で18回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で23点、掲載させていただきます。

**「風魔」 上下 宮本昌孝／著**  
祥伝社 2006年刊 913.6/ミ

伝説では、怪物のように、描かれる風魔小太郎。その怪物性を残しつつも作者らしい爽やかな主人公に作り上げられていて、読み心地が良い。徳川の世になり、迫害される風魔一党を守るため、徳川家康、柳生宗矩らを手玉にする様は、痛快で楽しい。(30代 女性)

**「酒田さ行くさげ」 宇江佐真理／著**  
実業之日本社 2012年刊 913.6/ウ

今年10月頃に初めて芝北文庫で知り、たて続けに上記作品 以外に「高砂」「千両かんばん」「ほら吹き茂平」「虚ろ舟」「雪まろげ」等を読みました。全て一冊に短編で4～5話あり、文体が読み易く武士と町人のからんだ人情物語が多く、記憶に残りました。(70代 男性)

**「宇宙へ「出張」してきます」 古川聡ほか／著**  
毎日新聞社 2012年刊 538.9/ウ

宇宙飛行士の方が書いた本なので、宇宙での活動を詳細に知ることができて、また、ロケット発射・地球への帰還時の状況をリアルに感じられた。今まで難しくて遠くに感じていた宇宙をとっても身近に感じてワクワクした。宇宙にはまだいろんな可能性があるそうなので、日本が今後も宇宙開発事業に力を入れてくれるといいなと思う。夢とロマンが詰まった一冊だった。(20代 女性)

**「武士道」 新渡戸稲造／著**  
岩波書店ほか 1991年刊 156/ニ

古来から目には見えない形で継承されてきた“武士道”、その根幹にある“大和魂”や、今も外国人から見た日本人は“サムライ”と思われる日本人特有の精神が詰められた一冊。10代目線ではまだ難しい解釈もあり、大和魂を理解することができなかったが、今後もこの“武士道”を次の世代へ継承しなければという使命感が得られた。(10代 男性)

**「戦士ジャンヌ・ダルクの炎上と復活」**  
竹下節子／著  
白水社 2013年刊 289.3/ジ

聖女ジャンヌ・ダルクの戦いを、同時代性という切り口から考察する内容です。政治や宗教、ナショナリズム、ジェンダーなど様々な問題に対し、個人はいかに向き合うかということを考えるきっかけになりました。(20代 女性)

**「告白」 湊かなえ／著**  
双葉社 2008年刊 913.6/ミ

よく考え込まれてます。章ごとに視点を換え、登場人物それぞれの思惑が丁寧に描かれ、それによるストーリー進行の妙があり、とても面白かったです。スピード感、又、伏線もバランスよく(多すぎず少なすぎず)、松たかこさん主演で映画化されたのも当然かな？と感じました。(30代 男性)

「ブラックアウト」、 「オール・クリア」1・2  
コニー・ウィリス／著  
早川書房 2012～2013 年刊 933.7/ウ

伏線がすごい！ラストに近づいて来ると、コレがコレに繋がってたの～と、驚きの連続！さすが、コニー・ウィリスって感じです。コニー・ウィリスは悲しい系とコメディ系がありますが、これは悲しい系。『航路』を読んだ時の様な悲しみを感じました…。この本は2部作で、前編にあたる『ブラックアウト』から先にお読み下さい。『オール・クリアー』は1巻と2巻になりますので、全3冊の大長編です。(40代 女性)

「永遠の0」 百田尚樹／著  
太田出版 2006 年刊 913.6/ヒ

この物語は、単に戦争の悲惨さを物語っているわけではない。後世に希望が繋がり、生きる勇気を与えてくれる作品である。(40代 女性)

愛や誠実さを表す本として、太平洋戦争の歴史的背景や流れを学ぶ本として、色んな人に読んでもらいたい。(30代 女性)

「夜回り先生」 水谷修／著  
サンクチュアリ・パブリッシング  
2004 年刊 367.6/ミ

私はこの本を読んだとき泣きました。なぜ泣いたのかは分かりませんが、先生にメールをしてみました。そうしたら水谷さんは「人のためになにかしてごらん」とおっしゃいました。いつか私も人のために何かしたいです。(10代 女性)

「島はぼくらと」 辻村深月／著  
講談社 2013 年刊 913.6/ツ

主人公たちを取り巻く大人たちの背景描写に何度も涙を流してしまいました。私と同じく子育て世代の皆さんにも、主人公たちとおなじ世代の高校生の皆さんにも、よんで欲しい一冊です。(30代 女性)

「超訳ニーチェの言葉 II」  
フリードリヒ・ニーチェ／著  
ディスカヴァー・トゥエンティワン 2012 年刊  
134.9/ニ

ジャンルは哲学だが翻訳書であるため読みやすい。愛や人の章を含め人生に関する9章、232の言葉が紹介されており、共感できるものも多い。生きている限り人は悩む。人生に悩んだり、迷ったり、わからなくなったりした時の答えをこの本に見出す事はできないかもしれないが、指針にはなる。そんな本ではないかと思う。私自身は今年、ずいぶんこの本に助けられた。(女性)

「野心のすすめ」 林真理子／著  
講談社 2013 年刊 914.6/ハ

20代から林さんの作品を読んでいます。50代に入った今も元気がもらえます。「自分の身の程を知ること大切ですが、ちょっとでもいいから身の程より上を目指してみる、そうして初めて選択肢が増え、人生が上に広がっていく」。この言葉から勇気をもらえたので“オススメ”です。(50代 女性)

「茶の本」 岡倉覚三／著  
岩波書店 1979 年刊 B791/オ

著者は美術界の指導者。米国ボストン美術館に勤めた時、英文で出版。一服の茶を通して「茶の哲学」説く内容は炯眼(けいがん)の士を感じる。ペットボトルで簡単に飲めるお茶。が、少し立ち止まって読んでみることもお勧めします。(60代 女性)

「ようこそ、わが家へ」 池井戸潤／著  
小学館 2013 年刊 B913.6/イ

匿名なら何をやってもいいのか、自分の正義を振りかざし、社会の風紀を乱していいのか、ということ問われ、自信をもって NO と答えられない自分を見つけました。(10代 男性)

「はてしない物語」 ミヒヤエル・エンデ／著  
岩波書店 1982 年刊 K943/E

図書館では児童書の扱いに なっていますが、大人にも是非読んでもらいたい本です。全編にちりばめられたファンタスティックで奇想天外なキャラクターやエピソードの数々は、大人も子供も夢中にさせます。読み進むうち、読者の視点が主人公のそれと重なっていき、いつの間にか自らも本の世界へと入ってしまうような感覚をおぼえます。さらに、大人になってから読みなおしてみると、冒険物語の根底に置かれた大きな主題や、人生哲学のようなものも見えてきます。本を読むことの喜びと大切さを、あらためて教えてくれる物語。何度でも読み返したい一冊です。  
(30代 女性)

「空の上で本当にあった心温まる物語」、  
「空の上で本当にあった心温まる物語2」  
三枝理枝子／著  
あさ出版 2010～2011 年刊 687.0/サ

モチベーションが上がり、「相手の人のために、役に立ちたい」と思う本。飲食業をはじめ、医者、教師、建築家等々の多くの仕事をするうえで、「おもてなし」のヒントがたくさん浮かんできます。中学生、高校生、大学生に、とくに読んで頂きたいと思います。(50代 女性)

「春から夏、やがて冬」 歌野晶午／著  
文藝春秋 2011 年刊 913.6/ウ

初めて読ませて頂きましたが、とても良く書かれていて、我事に置きかえ、涙して読みました。犯人が自首して良かったと思いますが、亡くなった人は返って来ません。似たような事が何処でも起こっていると思いますが、早くなくなれば好いと思いました。(70代 男性)

「陽だまりの彼女」 越谷オサム／著  
新潮社 2008 年刊 913.6/コ

映画化もしましたし、読んだ中で史上最強の恋愛小説でした！  
たくさんの方々に読んで欲しいです。そしてあの女子力、見習いたいと思います。(10代 女性)

「耕せど耕せど」 伊藤礼／著  
東海教育研究所 2013 年刊 626.9/I

家庭菜園の様子がおもしろおかしく書かれ、情景が浮かんできてまるで漫画のよう。  
これをきっかけに伊藤礼さんの自転車シリーズも読ませて頂きました。(50代)

「消滅した国々」 吉田一郎／著  
社会評論社 2012 年刊 312/ヨ

第二次世界大戦以降に消滅した 183 ヶ国について、実に詳しく述べられている。  
その辺りの経緯やそれらの国の国旗まで掲載されているまさしく学際的な本。(50代 男性)

「書店ガール 2」 碧野圭／著  
PHP 研究所 2013 年刊 B913.6/7

1巻がとても面白く、2巻を購入しました。  
前向きに働く立場の違う2人の女性が、家庭や仕事での転機に向き合う姿勢が好印象でした。  
本好きの私にとっては舞台が本屋というのも楽しみのひとつです。年末の大掃除で沢山の本を処分しましたが、このシリーズは手放せませんでした。  
(30代 女性)

「王妃の帰還」 柚木麻子／著  
実業之日本社 2013 年刊 913.6/ユ

一番楽しかったけど、あの息苦しいような高校生活をまざまざと思い起こさせる そんな作品。女子同士のある種の階級。その一番下の階級に、クラスのトップに君臨する女王様が突然割り込んで、平穩に学校生活を送りたかった主人公の生活に波乱が巻き起こり。まさに自分の身におこった出来事のように思えてきた一冊です。(40代 女性)

「生きる悪知恵」 西原理恵子／著  
文藝春秋 2012 年刊 159/サ

生きる為の悪知恵。  
西原さんが体験したすさまじい現実。題名は「悪知恵」とあるが、必死で頑張っ、登り上がった彼女の生き方は素晴らしい。(60代)

○「おっちゃん、なんで外で寝なあかんの？」生田武志 ○「完璧な母親」まさきとしか  
 ○「ソロモンの偽証」宮部みゆき ○「原因」と「結果」の法則」ジェームズ・アレン  
 ○「さよなら溪谷」吉田修一 ○「若おかみは小学生！」令丈ヒロ子 ○「鬼平犯科帳」池波正太郎  
 ○「妖怪一家九十九さん」富安陽子 ○「カゲロウデイズ」じん(自然の敵P) ○「花の鎖」湊かなえ  
 ○「道、果てるまで」戸井十月 ○「ヒトはなぜ神を信じるのか」ジェシー・ベリング ○「壁」安部公房  
 ○「ノストラダムスの大予言」五島勉 ○「ろうかのいちばんおくの教室は」ダグラス・エバンス  
 ○「高校入試」湊かなえ ○「別冊図書館戦争Ⅰ」有川浩 ○「オリンピックの身代金」奥田英朗  
 ○「ロスジェネの逆襲」池井戸潤 ○「元禄忠臣蔵」真山青果 ○「播磨灘物語」司馬遼太郎  
 ○「聖痕」筒井康隆 ○「オール」山田悠介 ○「いたずらまじょ子とのろわれた小学校」藤真知子  
 ○「サンタクロースの辞典」グレゴアール・ソラレフ ○「謎の独立国家ソマリランド」高野秀行  
 ○「里山資本主義」藻谷浩介 ○「怪盗レッド」シリーズ 秋木真 ○「白い道」吉村昭  
 ○「なんでも魔女商会」シリーズ あんびるやすこ ○「ミッドウェイ」森村誠一 ○「海と毒薬」遠藤周作  
 ○「友罪」薬丸岳 ○「あやしいほらあな」寺村輝夫 ○「悪ノ娘」シリーズ 悪ノP ○「父帰る」菊池寛  
 ○「最後の物たちの国で」ポール・オースター ○「オリエント急行とパンドラの匣」はやみねかおる  
 ○「ルルとララのシャーベット」あんびるやすこ ○「赤土の島」藤本文昭 ○「薩摩史談」青屋昌興  
 ○「『ミス・パイロット』STORY BOOK」市川しんす ○「生活保護3兆円の衝撃」NHK 取材班  
 ○「きつねものがたり」ヨセフ・ラダ ○「中国はいかにチベットを侵略したか」マイケル・ダナム  
 ○「貧乏人が激怒するブラック日本の真実」午堂登紀雄 ○「にいちゃんのランドセル」城島充  
 ○「東京プリズン」赤坂真理 ○「おつかれっ!毎日パンダ」高氏貴博 ○「五二屋傳蔵」山本一力  
 ○「黒魔女さんが通る!!」石崎洋司 ○「ルルとララの天使のケーキ」あんびるやすこ  
 ○「老年の見識」三浦朱門 ○「そして父になる」是枝裕和 ○「Tale Winds」三枝理枝子  
 ○「リアルな場ですぐに役立つ最上級のマナーBOOK」三枝理枝子  
 ○「よみきかせホ・オポノポノ」マベル・カツ

…ほか

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想や書名のすべては掲載できませんでした。  
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

☆ お読みにになりたい本が見あたらない時は、カウンターでおたずねください ☆

## 地域館等の祝日振替休館の変更について

平成 26 年 4 月から地域図書館（前川、新郷、横曽根、戸塚、鳩ヶ谷図書館）及び芝園分室、文庫（芝北、南鳩ヶ谷文庫）では、祝日の振替休館がなくなります。ただし、月曜日が祝・休日にあたる場合は、翌平日が休館日になります。

※文庫（芝北、南鳩ヶ谷文庫）の祝日開館時間につきましては、該当曜日の開館時間（月～木・日曜：午後 1 時～午後 5 時、金・土曜：午前 10 時～午後 5 時）になります。